

5.1 大学キャンパスの存在意義

本章では、第2章、第3章、第4章で明らかにしてきた大学キャンパスの現状、評価、価値について総括することにする。

■大学キャンパスの現状

第2章で明らかにしてきたように、大学キャンパスは法的制限、学生の増加、東京の拡大の影響を受けて都心→郊外→都心へと立地変遷し、都心と郊外では市街地との関連性の点で大きな差異があることがわかった。そして、大学キャンパスは都市を構成する大規模団地でありながらも、閉領域をつくっていることがわかった。

■大学キャンパスの評価

第3章では、大学キャンパスが閉領域を形成しているが故に、学生街的评价が高く、他の価値に関してはあまり評価を得ていないことを明らかにしてきた。それは、大学キャンパス自体が周辺地域においてどれくらいの評価を得ているかという点について見たときも同じであり、高い評価を得ていないことが分かった。

■大学キャンパスの価値

第4章では、3章で示した問題を孕みながらも、大学キャンパスが周辺地域に対して持つ多様な価値を明らかにしてきた。それは、学生街性・自然名所性・オープンスペース性・持続性・防災性・地域交流性・アイコン性であり、周辺地域に対して波及的価値・空間的価値・社会的価値をもたらすものであることを明らかにしてきた。

以上をまとめると、東京において大学キャンパスは都市を構成する大規模団地として存在しているにも関わらず、閉領域をつくっているため、周辺地域からの明快な評価を得ることは難しい。しかし、大学キャンパスは波及的価値、空間的価値、社会的価値という3つの側面での価値をもっており、都市において大学キャンパスが果たしている役割は大きなものであると言える。

5.2 今後の大学キャンパスの展望

今まで見てきたように、大学キャンパスは周辺地域に対して多くの価値を持っていることを明らかにしてきた。しかし、大学キャンパスの評価でも明らかにしたように、周囲からの高い評価を大学キャンパスが得られているわけではないという現状が存在する。また、波及的価値である商業立地も学生の滞在の減少等の理由により、衰退してきている。確かに、昨今大学キャンパスは周辺地域に対して開放的な取り組みを行っているという動きが見られるが、大学キャンパスの持つ閉領域性は自治・管理の問題から考えてもそう簡単になくなるものであるとは考えにくい。

このような状況で、では今後の大学キャンパスはどうあるべきであろうか。まず、考えられることは、商業立地を促す学生の近接居住を再考することであろう。学生が大学キャンパスに

住むことで、周辺地域に学生の活気が生まれるし、それにより周辺商店街も活性化すると考えられる。

次に言えることは、大学キャンパス自体が持つ価値を再考し、本章で明らかにした空間的価値、社会的価値を残していくような大学空間であるべきだということである。歴史的建築や西洋性を表象する大学独自の空間は、他施設とは違った異次元空間のような場所であり、そのような場所をできるだけ残していくことは必要であると考えられる。最近、学習院大学の有名な建物である前川国男設計のピラミッド校舎(1960年竣工)が取り壊されることが新聞で報じられたが、こういった遺産を残していけるような環境が大切である。

さらに言えることは、大学キャンパスの持つ閉領域としての価値を見直すべきだということである。先ほども述べたように、昨今の大学開放の動きも重要であるが、大学キャンパスの閉領域としての価値も見逃してはならないと考えられる。本論では明らかにすることはできなかったが、大学キャンパスが閉領域であることで、歩車分離のなされた人のための空間を形成してきたし、またオープンスペースや自然名所、歴史的建築などが保存されてきたと言える。これは、神社・仏閣が持ってきたようなアジールの空間の価値であるだろう。閉じながら開いているような曖昧な空間としての大学キャンパスの価値を再考することも重要な視点であると言える。

以上をまとめると、

- ・学生居住がもたらす波及的価値を再考すること
 - ・大学キャンパス自体が持つ空間的価値、社会的価値を残していくこと
 - ・大学キャンパスの持つ豊かな環境を保存する閉領域としての価値にも目を向けること
- が、大学キャンパスが周辺地域に文化的価値をもたらし、それが認識・評価されるために必要だということである。

これまで本論で大学キャンパスが周辺地域に及ぼす影響としての文化的価値を明らかにしてきたが、これらの文化的価値を全ての大学キャンパスが持つわけではない。けれども、これらは大学キャンパスの持つ独自の文化的価値であり、一つでも持つ大学キャンパスは周辺地域にとって大きな財産であると言える。このような文化的価値を持つ大学キャンパスは都市を構成する一つの要素として不可欠なものであり、これからも街の定点として変わらず存在し続けることが、周辺地域にとって重要なことであると言えるだろう。

付録 1：東京の大学キャンパス航空写真

Google Earth の航空写真を元に、縮尺 1:20000 で大学キャンパスの敷地面積を示した。

航空写真 SCALE 1/20000 敷地面積 50 万㎡以上



国際基督教大学 / 546486 ㎡



東京大学 / 本郷キャンパス / 537613 ㎡



玉川大学 / 422460 m

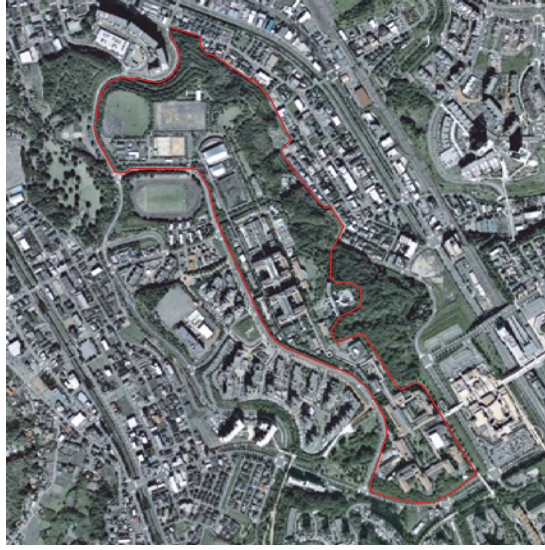


創価大学 / 435920 m



中央大学 / 多摩キャンパス / 468522 m

航空写真 SCALE 1/20000 敷地面積 10 万㎡以上



首都大学東京 / 南大沢大沢キャンパス / 323088 ㎡



拓殖大学 / 八王子キャンパス / 333320 ㎡



明星大学 / 青梅キャンパス / 383767 ㎡

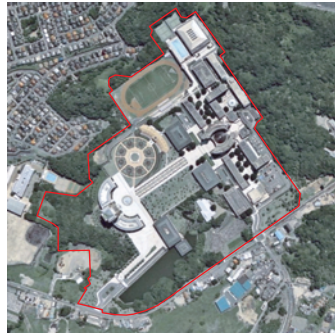
航空写真 SCALE 1/20000 敷地面積 10万㎡以上



東京農工大学 / 府中キャンパス / 303761 m



東京学芸大学 / 300821 m



東京工科大学 / 293795 m



法政大学 / 多摩キャンパス / 292023 m



一橋大学 / 281257 m



東京大学 / 脚場キャンパス / 246101 m



東京工業大学 / 214027 m



学術院 / 196301 m



東京農工大学 / 小金井
174169 ㎡



成蹊大学
170427 ㎡



明星大学 / 日野
160498 ㎡



東京薬科大学
142306 ㎡



東京海洋大学 / 越中島
140943 ㎡



東京海洋大学 / 港南
133777 ㎡



帝京大学 / 八王子
133410 ㎡



東京外国語大学
133400 ㎡



多摩美術大学 / 八王子
130593 ㎡



東京農業大学
125358 ㎡



共立女子大学 / 八王子
122248 ㎡



日本大学 / 文理
121450 ㎡

航空写真 SCALE 1/20000 敷地面積 10万㎡以上



電気通信大学
115171 ㎡



工学院大学 / 八王子
113964 ㎡



早稲田大学 / 西早稲田
107707 ㎡



青山学院大学 / 青山
105896 ㎡



武蔵野美術大学
102410 ㎡



大妻女子大学 / 多摩
100181 ㎡

航空写真 SCALE 1/20000 敷地面積 5 万㎡以上



武蔵野大学
98140 ㎡



昭和薬科大学
97673 ㎡



杏林大学 / 八王子
95845 ㎡



成城大学
93491 ㎡



東京女子大学
90105 ㎡



国立音楽大学
86117 ㎡



津田塾大学
84158 ㎡



明治薬科大学
80488 ㎡



武蔵大学
77671 ㎡



明治大学 / 和泉
73349 ㎡



東京経済大学 / 武蔵村山
72683 ㎡



国士館大学 / 鶴川
71874 ㎡



駒沢女子大学
71281 ㎡



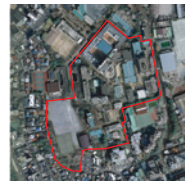
慶應義塾大学 / 信濃町
69822 ㎡



聖心女子大学
69435 ㎡



立教大学
67241 ㎡



お茶の水女子大学
66729 ㎡



昭和女子大学
64689 ㎡



和光大学
64349 ㎡



学習院女子大学
63788 ㎡



首都大学東京 / 日野
61972 ㎡